

I-(1)-① 地域再生プロジェクト

フィールドワークによる地域再生教育プログラムの整備 ー海士町をはじめとする国内フィールドワークの単位化に向けてー

【概 要】

鳥取大学の教育研究理念である「地と実践の融合」を具現化し、地域学部のミッションである「地域づくりのキーパーソンの養成」を実現するには従来の座学中心の教育だけでは限界があり、先駆的な地域づくりを展開する現場に赴き、様々な取り組みを間近で体験しながら多くのキーパーソンと交流を図ることが不可欠である。そのため、これまでから地域学部ではフィールドワークを重視した教育体系を構築し、2年次に地域調査実習、3年次以上ではゼミの専門教育やインターンシップ等を通じて学生に現場体験を積ませてきた。

一方、1年生に対しては、1年次必修科目の「地域学入門」の外部講師とのつながりで2009年度から始まった島根県海士町や鳥取県南部町へのフィールドワークによって、講義だけでは十分に説明できなかった地域づくりの現実を学ぶプログラムを実践してきた。しかし、これらのフィールドワークは、いずれも両地域に関係の深い教員の自発的な協力によって行われる、いわばインフォーマルなフィールドワークであり、その成果に反して、教育プログラムとして位置づけは非常に不安定であった。

そのため、今後も持続可能な取り組みとするために、インフォーマルな位置づけのこれらのフィールドワークを「国内フィールド演習」として科目設定し、履修者に単位を与える方向が検討されている。そこで本事業では、海士町フィールドワークをはじめ単位取得可能なフィールド演習プログラムを、いくつかの自治体と協議しながら整備し、地域再生教育の強化・充実を図るものである。

【キーワード】 地域学入門、フィールド教育、地域調査、海士町、南部町

【参加メンバー】 地域政策学科 准教授 竹川俊夫

(海士町フィールドワークへの参加、徳島大学のインターユニフィールドワークプログラム@上勝町への参加、単位化等公式化の要件整備や受け皿となるプログラム整備のための現地との調整)

地域政策学科 准教授 仲野 誠

(海士町フィールドワークへの参加、単位化等公式化の要件整備や受け皿となるプログラム整備のための現地との調整)

【計 画】 1年目：①海士町・南部町へのフィールドワークの実施
②単位化への了解の取り付けとフィールドワークプログラムの検討
③徳島県上勝町における徳島大学のフィールドワークプログラムへの参加
④国内フィールド演習科目の創設（教育課程表の見直し）
2年目：①海士町・南部町・上勝町へのフィールドワークの実施
②フィールドワークプログラムの検証→プログラム修正
③新たなフィールドワークプログラムの検討
3年目：①海士町・南部町・上勝町・その他へのフィールドワークの実施
②フィールドワークプログラムの検証→プログラム修正
③新たなフィールドワークプログラムの検討

【連携先】 島根県海士町、鳥取県南部町、徳島県上勝町（予定）、その他